

Collegium Musicum del Cervo

コレギウム・ムジクム・デル・チェルボ

# 第11回定期演奏会

土曜の午後はステキにクラシック



ゲストコンサートマスター  
関本 悠羽

J. シュターミッツ  
シンフォニア 変ホ長調

F.J. ハイドン  
交響曲第 92 番 ト長調 Hob.I:92  
「オックスフォード」

J.C. アリアーガ  
歌劇「幸福な奴隷」序曲

W.A. モーツァルト  
交響曲第 39 番 変ホ長調 K.543

8月29日(土)  
14:00 開演 (13:30 開場)

入場無料

たんようウェルネスパーク  
アラベスクホール

加古川市東神吉町天下原370  
TEL: 079-433-1100



後援 加古川市教育委員会 / 加古川フィルハーモニー管弦楽団

ホームページ

<http://collegium-musicum-del-cervo.net/>

f コレギウム・ムジクム・デル・チェルボ

## ■ JR・バス

JR 加古川駅下車、神姫バス約 20 分「ウェルネスパーク」下車

## ■ 車

加古川バイパス「加古川西ランプ」より北へ 約 1km、  
「東神吉西」交差点を右折し東へ 約 1.2km、  
ウェルネスパーク案内板を左折し北へ 約 0.9km。

山陽自動車道「加古川北 IC」より南へ 約 6km、  
「東神吉西」交差点を左折し東へ 約 1.2km、  
ウェルネスパーク案内板を北へ 約 0.9km

※小さなお子様と一緒に鑑賞いただける  
チャイルドルームもございます。  
お気軽にご来場ください♪

お問い合わせはこちらから➡



# Profile

## ゲストコンサートマスター 関本 悠羽 Yu Sekimoto

5歳よりバイオリン、10歳よりピアノ、12歳よりトランペット、20歳よりヴィオラを始める。2017年春から2年間、神戸大学の指揮法ゼミに通い齊田好男氏より齋藤メソッドを学ぶ。その後、関西学院交響楽団の学生指揮者として、齊藤一郎、新田ユリ、海老原光、井村誠貴、各氏のアシスタントを務めた。

現在、関西学院交響楽団OB指揮者、明石フィルハーモニー管弦楽団団内指揮者兼団内コンサートマスター。

## コレギウム・ムジクム・デル・チェルボ (Collegium Musicum del Cervo)

兵庫県加古川市を拠点として、2012年に誕生。30代から60代までの幅広い年齢層のメンバーで構成される室内合奏団。加古川の旧表記「鹿兒川」にちなみ、イタリア語で「鹿の音楽集団」と命名。通称、「チェルボ」(鹿)。モーツァルトやハイドンなどの古典派の作品を主なレパートリーとしながら、あまり知られていない作曲家や楽曲を選曲し、メンバーが互いに議論することでチェルボ独自の作品の解釈を深める。アマチュアでありながら質の高い音楽作りを目指す。

現在メンバーは24名(ヴァイオリン9名、ビオラ3名、チェロ3名、コントラバス1名、フルート2名、オーボエ1名、クラリネット2名、ファゴット2名、ホルン1名)。

## Notes

### シンフォニア 変ホ長調 (J.シュターミッツ)

ヨハン・シュターミッツ(1717-1757)は、ボヘミア出身の作曲家、ヴァイオリニストです。マンハイム宮廷楽団の器楽監督としてマンハイム楽派の興隆に貢献し、作曲家としても多くの室内楽曲や交響曲を遺しています。

このシンフォニア変ホ長調は3つの楽章からできており、編成はヴァイオリン2、ヴィオラ、バスの弦楽器のみで演奏されます。意外な転調や強い主張はなく、この曲が優雅な楽しみのものであることがうかがえると同時に、約半世紀のちにやってくるモーツァルトの時代も予感させる作品です。

### 交響曲第92番 ト長調 Hob. I:92 (F.J.ハイドン)

ハイドンの交響曲第92番「オックスフォード」は、名誉博士号を受けた際に滞在していたオックスフォードでのコンサートで演奏されたことから、この名がつけました。音楽は明るくのびやかで、朝の光が少しずつ広がっていくような開放感があります。途中には、ふっと意表をつく展開や軽やかなリズムの変化があり、思わず耳をそばだてたくなる瞬間が続きます。どの楽章も親しみやすく、クラシックに慣れていない人でも自然に景色が浮かぶように楽しめる一曲です。

### 歌劇「幸福な奴隷」序曲 (J.C.アリアーガ)

モーツァルト生誕の50年後の同日、1月27日に生まれたアリアーガ。その天賦の才能と、19歳で夭折という短い生涯が似通っていることから「スペインのモーツァルト」と呼ばれました。この序曲は幸福感漂うメロディーで始まり、軽快で駆け抜けるような曲想が展開し、次第に高揚感に包まれ華やかにフィナーレを迎えます。

作曲を学ぶ以前の14歳の少年が書いたとは思えない魅力的な曲です。ですが残念なことに、今日では演奏されることがとても少ないのです。皆さま、どうぞこの希少な機会をお聴き逃しなく！

### 交響曲第39番 変ホ長調 K.543 (W.A.モーツァルト)

モーツァルトは、1791年に生涯を終えるまでの10年間をウィーンにて、フリーランスのピアニスト兼作曲家として活動しました。彼は幼少から天才音楽家として名を馳せており活動当初は人気だったものの、彼の発表作は悉く当時の音楽業界に受け入れられず、常にパトロンからの多額の借金を抱えながらの活動でした。その不遇の真ただ中の1788年の夏に、彼は曲想の異なる交響曲3作(第39~41番)を6週間で書き上げました。これらは彼の死後に演奏されたところ欧州の至る所で好評を得て、今では世界中のオーケストラが後期三大交響曲としてレパートリーにしています。

今回演奏する第39番は3作品の中では明るく軽妙な曲想が特徴で、洗練されたオーケストレーションにより、4つの楽章すべてが聴きどころ満載です。